

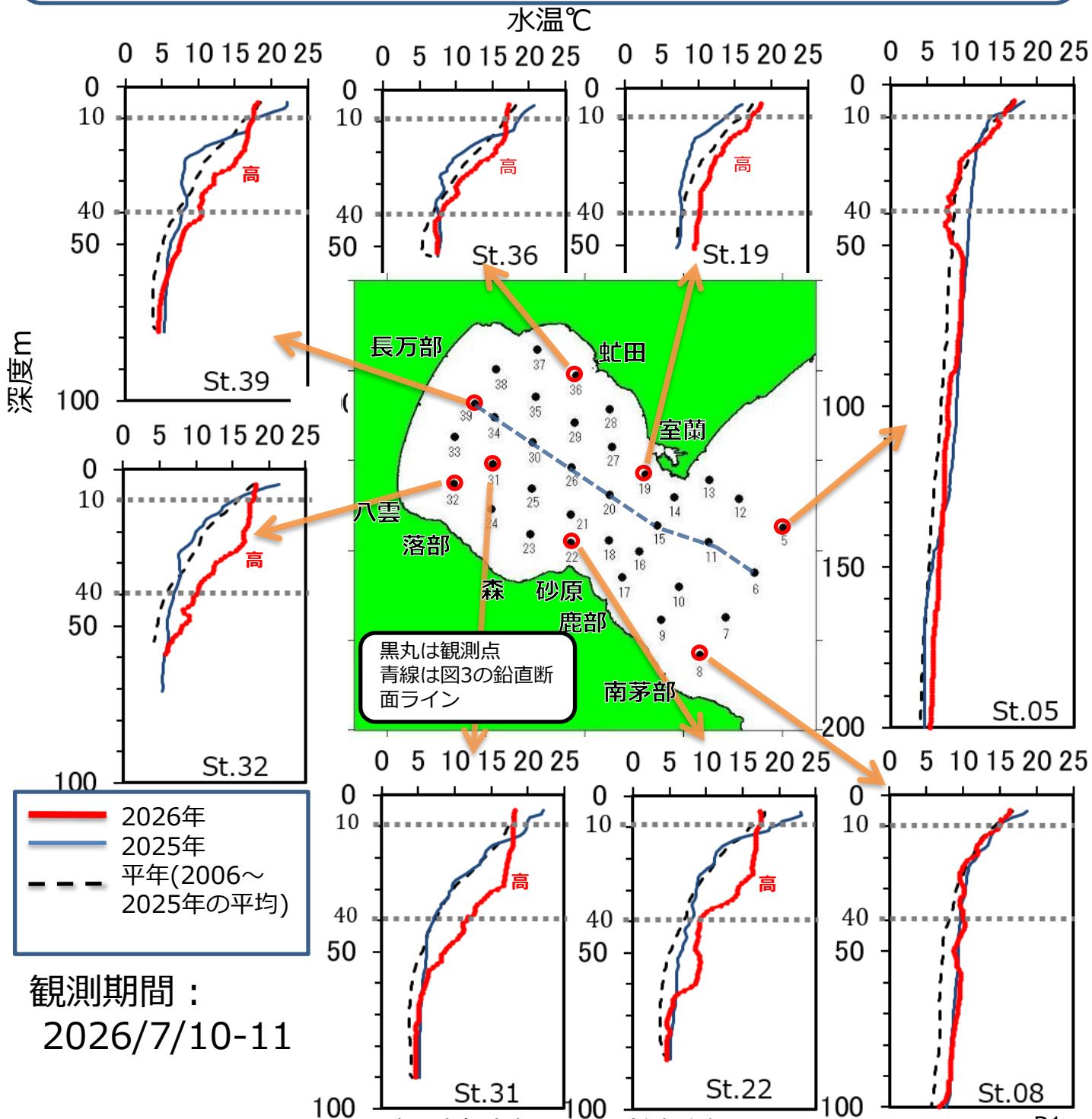


2026年7月10～11日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分の観測結果をお知らせします。
QRコードからもアクセスできます→

- ・海面付近の水温は平年並
- ・渡島側湾奥の深度20～30mでは平年より5℃程度高い
- ・湾央～渡島側湾奥の海底は貧酸素状態

【水温の鉛直分布】

噴火湾周辺の深度10m以浅の水温は12～20℃と、前年より低く平年並でした（図1）。湾内の深度10～40mの水温は昨年および平年よりも高く、特に渡島側湾奥の深度20～30mでは平年より5℃程度高くなっています（St.32, 20m層, 平年+6.1℃）。



【水温、塩分・流れの水平分布】

噴火湾内深度10mの水温は湾内で17～18℃台、湾外で13～16℃台で（図2A），前年同時期（図2D）と比べ湾内中央部で低くなっていました。深度10mの塩分は湾中央部で32.4以下，湾外では32.8以上で，前年と比べ湾内で高く，湾外で低くなっています（図2B,E）。また，湾内では時計回りの渦が形成されています（図2C）。

【溶存酸素の分布】

海底上5mの溶存酸素量は1.4～4.2ml/Lで，湾央～渡島側湾奥の溶存酸素が低く（図2F），前年同時期（2.5～6.4ml/L）と比べても低くなっています。

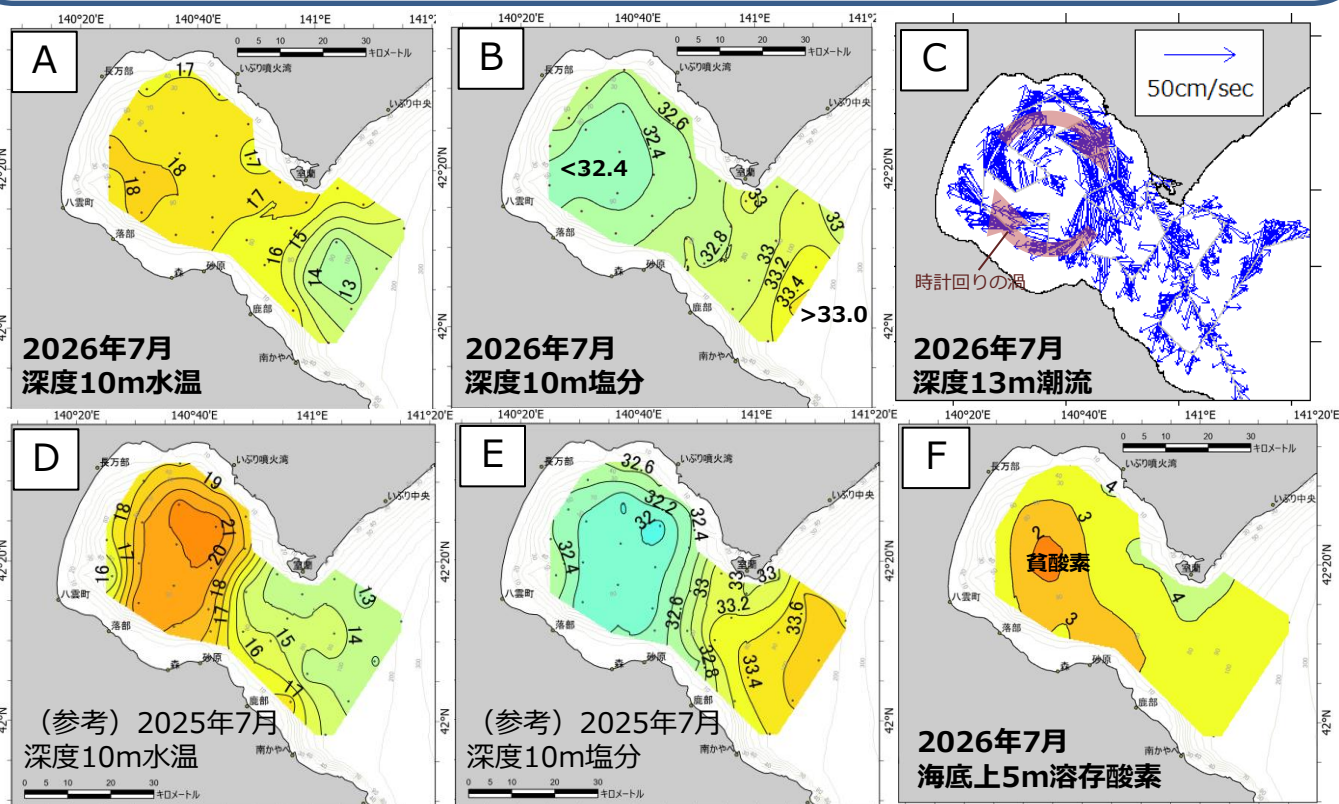


図2 A:水温（深度10m），B:塩分（深度10m），C:潮流（深度13m），
D:前年の水温（深度10m），E:前年の塩分（深度10m），F:溶存酸素の分布（海底上5m）

【水温、塩分の鉛直断面分布】

噴火湾内の表層は水温16～20℃で，10m以浅には夏季噴火湾表層水※が分布していますが，前年同時期（最高23℃）のような高水温とはなっていません。一方10℃の等温線は深度40～50mにあり，前年同時期（20～30m）より深くまで達していました。暖流系水（水温6℃以上，塩分33.6以上）は湾外の50m以深に分布しています（図3）。
※河川水の流入と大気からの加熱等により高温低塩分化した表層の水塊（水温18℃以上，塩分32.0以下）

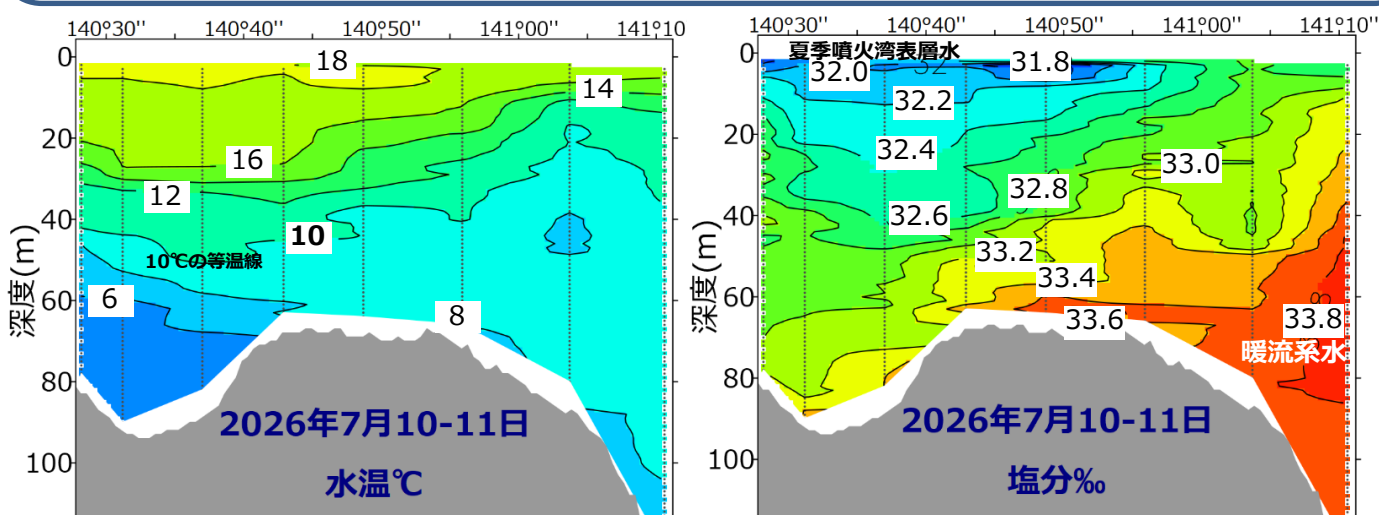


図3 水温・塩分の鉛直断面図（図中破線は観測点）※鉛直断面の位置は図1の青破線を参照